

陸連時報 三

2017
平成29年

8

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

| | |
|---|-----|
| 会長就任にあたって | 222 |
| 公益財団法人日本陸上競技連盟 理事・監事・専門委員長 | 223 |
| 専務理事4期目就任にあたり | 224 |
| 第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)日本代表 | 225 |
| 第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)競歩日本代表メッセージ | 226 |
| 評議員会・理事会報告 | 228 |
| 第2回アジアユース陸上競技選手権大会報告 (強化委員会強化育成部コーディネーター 岩瀧一生) | 230 |
| U16ブロック研修合宿報告 | 232 |
| 2017数字で見る陸上競技Vol.1 都道府県公認競技会数 | 234 |
| 大会観戦ガイド | 235 |
| 陸協NEWS | 236 |
| 事務局からのお知らせ | 238 |

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

会長就任にあたって



このたび私は、任期満了に伴う役員改選におきまして、引き続き、公益財団法人日本陸上競技連盟会長を拝命いたしました。我が国の陸上競技界を統轄し、代表する組織として関係各位の皆様にご理解ご協力をいただきながら陸上競技のみならず、来るべき東京オリンピック・パラリンピック競技大会を2020年に控え、日本のスポーツ界の発展に少しでも資することができるようその任を務めてまいりたいと思っています。

本年5月、日本陸上競技連盟は、「JAAF VISION」を発表しました。いま改めて、陸上競技の価値を問い、そして、今後日本の陸上競技界が持続的に発展していくために、～国際競技力の向上～トップアスリートが活躍し、国民に夢と希望を与える、～ウェルネス陸上の実現～すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境をつくることをミッションとし、ミッションを果たすために、「2028年に世界のトップ8、2040年に世界のトップ3、アジアのNo.1」、「2028年にアスレティックファミリー150万人、2040年にアスレティックファミリー300万人」をビジョンとして、掲げました。次は、ビジョンの具体的な施策の展開に取り組んでまいります。

これまでの2期4年間の会長職を振り返りまして、昨年日本陸上競技界は到達の年でもあり、出発の年でもありました。6月、日本陸上競技選手権大会は第100回という節目の大会を開催しました。感動を届ける。それは私たちに課せられた使命です。競技者が発揮する最高のパフォーマンスのみならず、多くの方々の使命に支えられ、100回という歴史を刻みました。我々は、今、魅力ある競技会づくりを目指し、みる人の拡大を図るべく、可能性に満ちあふれた未来に向かって、新たな一歩を踏み出します。

8月、リオデジャネイロオリンピックで、男子4×100mリレーで銀メダルを獲得しました。4人のスプリンターの勇姿は、国際舞台での活躍を夢に競技に取り組んでいる多くの若いアスリートに勇気と活力を与えてくれました。男子50km競歩の荒井広宙の銅メダルも高く評価出来ます。リオデジャネイロオリンピックで2つのメダルを獲得し、世界に注目された「TEAM JAPAN」を継承し、次回オリンピックとなる2020年東京に向けて、更なる挑戦をしてまいります。

2013年9月に決定しました2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、スポーツを取り巻く環境を大きく変化させました。もちろん、陸上競技界としてその例外ではなく、むしろこの大きな変化に機敏に対応し、スポーツ界を牽引する役割を果たしていかなければなりません。

また、スポーツの基礎となる「はしる」「とぶ」「なげる」という陸上競技の果たす役割として、やる人の拡大を目指し、普及、育成活動にこれまで以上に多角的に取り組むとともに、スポーツを行う「場」の提供、仕組みづくりを考えていきます。頂きはますます高く、裾野はますます広くという心境です。加えて、指導者の存在はあらゆる場面で欠かせないものです。多くの子どもたちに真のスポーツの楽しさ、スポーツを行うことでの人生の豊かさを感じるきっかけを作る役割が指導者であり、本連盟の重要な責務として指導者養成を考えていきます。

こうしたスポーツ界の多くの課題や大きな目標に向け、それらを成し遂げていく基盤となる組織の充実、コンプライアンスの遵守、ガバナンスの強化、そして日本陸上競技界の根本を支えて頂いている加盟団体、協力団体をはじめとする地域や関連団体との連携をより進め、多くの関係者とともに歩み、取り組んでまいり所存ですので、皆様のご理解、ご支援をお願いいたしまして就任のご挨拶といたします。

公益財団法人日本陸上競技連盟
会長 横川 浩

公益財団法人日本陸上競技連盟 理事・監事・専門委員長

日本陸上競技連盟は、2017年6月9日（金）、定時評議員会を開催し、役員（理事・監事）を選任しました。
6月12日（月）、理事会を開催し、会長、副会長、専務理事の選定及び専門委員長の選任をいたしましたので、下記にてお知らせします。

◆日本陸上競技連盟 役員（理事・監事）及び専門委員長

〈任期：2019年開催の定時評議員会終結時まで〉

【理事30名】

| | | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|--|
| 会 長 | 横川 浩 | | | | |
| 副 会 長 | 友永 義治 | 八木 雅夫 | | | |
| 専 務 理 事 | 尾縣 貢 | | | | |
| 理 事 | 橋本 秀樹 | 矢萩 治男 | 潮田 茂 | 齋藤 宰 | |
| | 平塚 和則 | 木原 靖之 | 新谷 誠規 | 稲垣 裕 | |
| | 竹内 章 | 山本 宜史 | 浜崎 正信 | 中山 桂 | |
| | 串間 敦郎 | 大西 清司 | 伊東 浩司 | 清水 真 | |
| | 小手川強二 | 鈴木 一弘 | 繁田 進 | 山澤 文裕 | |
| | 瀬古 利彦 | 平田 竹男 | 高橋 尚子 | 室伏 広治 | |
| | 有森 裕子 | 河野 太郎 | | | |

【監事3名】

| | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|--|--|
| 監 事 | 山田 浩一 | 前島 伸行 | 室城 信之 | | |
|-----|-------|-------|-------|--|--|

【専門委員長】

| | |
|----------|-------|
| 総務企画委員長 | 尾縣 貢 |
| 強化委員長 | 伊東 浩司 |
| 法制委員長 | 清水 真 |
| 財務委員長 | 小手川強二 |
| 競技運営委員長 | 鈴木 一弘 |
| 普及育成委員長 | 繁田 進 |
| 施設用器具委員長 | 高木 良郎 |
| 科学委員長 | 杉田 正明 |
| 医事委員長 | 山澤 文裕 |

専務理事4期目就任にあたり

専務理事 尾 縣 貢



6月12日の理事会にて専務理事職を拝命し、4期目を務めさせていただくことになりました。これまでの3期6年間には、通常の事業に加え、東日本大震災後の本連盟としての復興支援、第19回アジア選手権大会（神戸）の開催、公益財団法人への移行、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定後の本番に向けての準備などの重大な案件が絶え間なく続きました。また、2012年ロンドンオリンピック、2016年リオデジャネイロオリンピックの2回のオリンピックを迎えました。この6年の間、理事会、加盟団体、協力団体、事務局の皆さまとの強固な協力体制の元、多くの難局を乗り越えてこられたことに改めて感謝申し上げます。しかしながら、まだ解決できていない課題、そして今後生じてくるであろう新たな課題にも取り組んでいかなければなりません。特に、東京オリンピック・パラリンピックに向けては、これまで以上の労力と時間が求められるものと思っています。引き続き、陸上競技の発展のために誠心誠意、力を尽くしていき所存ですので、よろしく願い申し上げます。

東京オリンピックに向けて

東京オリンピック・パラリンピックまで残すところ3年、大会運営に関しては協議すべき諸々の課題があります。スタジアム、マラソンコース、競歩コースなどの競技サイトの詳細の決定、本番を想定したテストイベントの計画などは、東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会との共同作業になってきますので、連携を密にして推進してまいります。これらに加え、男女マラソン選手を選考するマラソングランドチャンピオンレースの時期、開催地とコース、運営形態などについても関係各所の協力を仰ぎながら至急詰めていく必要があります。

本連盟単独でも、「競技運営力の向上」「国際競技力の向上」という2つの重要な使命があります。競技運営に関しては、早々にオールジャパン体制を打ち出し、JTO（Japan Technical Official）を中心に、各都道府県陸協から選出された審判員および東京陸協の審判員からなる審判団の研修を計画しています。求められるのは、何よりもアスリートがのびのびと競技ができ、自身の力を出し切れる競技環境を提供することです。加えて、観客がアスリートの競技を見ることに集中ができ、陸上競技の楽しさが伝わるような運営を行うことが大切になってきます。大会運営、そして競技運営においても「日本らし

さ」をアピールできるように、引き続き、審判員の能力の育成を続けてまいります。

そして地元開催を盛り上げるためには、日本のアスリートの活躍が必須となります。リオデジャネイロオリンピック終了後、伊東新強化体制に移行し、4年間スペインの強化方針、強化策を作成・実施してきました。残された時間を鑑みると、戦える種目を中心とした重点強化策を強力に推進していく必要があります、これまでの国際競技会での実績などを基準に競技種目をステージに分け、それぞれの狙いに応じた強化策を展開しています。そして、メダル・入賞を目指す強化活動に加え、一人でも多くのアスリートが新国立競技場という最高の舞台上に立てるように、参加標準記録突破を目指した強化活動も並行して推進しなければなりません。

中長期のビジョン

本連盟では、2028年（中期）、そして2040年（長期）のわが国の陸上競技のあるべき姿を描いた“JAAF VISION 2017”を発表しました。このビジョンを作成するにあたり、そもそも陸上競技が持つ価値を明らかにするために、中・高校生や関係者からの意見を集めたいと協議を行いました。その結果、「陸上競技はすべてのスポーツの基礎である」「シンプルなスポーツであるからこそ人々に感動と共感を与えることができる」「より身近なスポーツであるためアクティブなライフスタイルを実現することができる」という価値を再確認いたしました。

これらの陸上競技の固有の価値を受けて、“国際競技力の向上”と“ウェルネス陸上の実現”の2つのミッションを設定いたしました。具体的には、「トップアスリートが活躍し、国民に夢と希望を与える」こと、「すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しむ環境をつくる」ことを提案しています。

そして、この二つのミッションを果たすために、国際競技力（プレーシングテーブル）で、2028年には世界のトップ8、2040年にはアジアのNO.1で世界のトップ3というビジョンに向けて、陸上競技の普及・育成・強化に関する活動を展開していきます。一方で、2040年までには、週1回以上陸上競技やランニングを楽しんでいる人口を2,000万人にすることを目標に掲げています。これを実現するために、競技会参加者、審判、コーチからなるアスレティックファミリーを2028年には150万人、2040年には300万人に拡大させることをビジョンの一つにしました。

これらの活動を展開する上で、加盟団体、協力団体、スポンサー各社、陸上競技ファンの皆さまの支援が必須となります。今後の日本陸上競技連盟の活動、特に2020年に向けての活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)日本代表選手

1. 選考手順

すでに公表されている日本代表選手選考要項(トラック&フィールド種目)、カテゴリー・種目別選考基準に則り、第1次代表選手選考を行った。選考手順は、第101回日本陸上競技選手権大会の終了後に、強化委員会にて強化委員会案を作成し、それを基に原案策定会議にて審議され、さらに理事会にて審議および承認された。

なお、マラソンおよび競歩の代表選手については、すでに公表済みである。

2. 第2次代表選手追加条件

トラック&フィールド種目の日本代表選手選考要項、カテゴリー・種目別選考基準に則り、日本選手権終了後(2017年6月26日以降)の標準記録の突破は、指定大会のみが対象となる。

第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン) 日本代表選手

[男子 15名]

| ブロック | 氏名 | フリガナ | 所属 | |
|------|-----------------|-----------------|-----|---------|
| 短距離 | サニブラウン アブデルハキーム | サニブラウン・アブデルハキーム | 東京 | 東京陸協 |
| | 多田 修平 | タダ・シュウヘイ | 大阪 | 関西学院大学 |
| | ケンブリッジ 飛鳥 | ケンブリッジ・アスカ | 東京 | Nike |
| | 飯塚 翔太 | イヅカ・ショウタ | 静岡 | ミズノ |
| 障害 | 北川 貴理 | キタガワ・タカマサ | 福井 | 順天堂大学 |
| | 高山 峻野 | タカヤマ・シュンヤ | 神奈川 | ゼンリン |
| | 増野 元太 | マスノ・ゲンタ | 群馬 | ヤマダ電機 |
| | 大室 秀樹 | オオムロ・ヒデキ | 徳島 | 大塚製薬 |
| 跳躍 | 安部 孝駿 | アベ・タカトシ | 岡山 | デサントTC |
| | 衛藤 昂 | エトウ・タカシ | 三重 | AGF |
| | 山本 聖途 | ヤマモト・セイト | 愛知 | トヨタ自動車 |
| | 荻田 大樹 | オギタ・ヒロキ | 香川 | ミズノ |
| 混成 | 山本 凌雅 | ヤマモト・リョウマ | 長崎 | 順天堂大学 |
| | 中村 明彦 | ナカムラ・アキヒコ | 静岡 | スズキ浜松AC |
| | 右代 啓祐 | ウシロ・ケイスケ | 静岡 | スズキ浜松AC |

※ マラソン代表(3名)、競歩代表(6名)は発表済

[女子 4名]

| ブロック | 氏名 | フリガナ | 所属 | |
|------|--------|----------|----|----------|
| 長距離 | 鍋島 莉奈 | ナベシマ・リナ | 東京 | 日本郵政グループ |
| | 鈴木 亜由子 | スズキ・アユコ | 東京 | 日本郵政グループ |
| | 松田 瑞生 | マツダ・ミズキ | 大阪 | ダイハツ |
| | 上原 美幸 | ウエハラ・ミユキ | 東京 | 第一生命グループ |

※ マラソン代表(3名)、競歩代表(1名)は発表済

<リレー種目選手>

| 種目 | 氏名 | フリガナ | 所属 | |
|------------|--------|-----------|-----|------|
| 男子 4×100mR | 桐生 祥秀 | キリュウ・ヨシヒデ | 埼玉 | 東洋大学 |
| | 藤光 謙司 | フジミツ・ケンジ | 神奈川 | ゼンリン |
| 男子 4×400mR | 佐藤 拳太郎 | サトウ・ケンタロウ | 埼玉 | 富士通 |
| | 木村 和史 | キムラ・カズシ | 香川 | 四電工 |

※リレー種目の派遣は、国際陸上競技連盟より、参加有資格国の発表後に決定する。

また、男子 4×400mR における候補選手については、南部忠平記念大会後に追加のメンバーを決定する。

第16回世界陸上競技選手権大会(2017 / ロンドン) 競歩日本代表選手

2017.4.18. 現在

8月4日から13日までイギリス・ロンドンで開催される第16回世界陸上競技選手権大会。

4月20日に決定した競歩の日本代表選手を紹介致します。

※成績記録は大会当時のもの

【男子20kmW3名】

高橋 英輝 (たかはし・えいき)



富士通・千葉 1992/11/19 生

花巻北高校(岩手)→岩手大学→富士通

選考競技会成績：2017日本選手権20kmW 1位

1時間18分18秒

2017日本選手権50kmW 途中棄権

世界選手権出場回数：2大会連続2回目(2017/

2015)

自己ベスト：1時間18分03秒(2015日本選手権)

主な成績：

2016年 オリンピック 20kmW 42位

2015年 世界選手権 20kmW 47位

2014年 ワールドカップ競歩 20kmW 9位

2013年 ユニバーシアード 20kmW 9位

〈大会に向けての抱負〉

競歩は世界大会において2大会連続でメダルを獲得していますが、いずれも50kmWで、20kmWは6位入賞が最高です。東京五輪でのメダル獲得に向け、今大会は常に先頭集団を意識し攻めのレースで結果に拘っていきます。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目!〉

積極的なレースで、8位入賞を目指します。

〈座右の銘/好きな言葉〉

継続は力なり



松永 大介 (まつなが・だいすけ)



富士通・千葉 1995/03/24 生

横浜高校(神奈川)→東洋大学→富士通

選考競技会成績：

2017日本選手権20kmW 欠場

2017全日本競歩能美20kmW 1位1時間19分

40秒

世界選手権出場回数：初出場

自己ベスト：1時間18分53秒(2016全日本競歩能美)

主な成績：

2016年 オリンピック 20kmW 7位

2015年 ユニバーシアード 20kmW 3位

2014年 世界ジュニア 10000mW 1位

2014年 ワールドカップ競歩

10kmW 2位

〈大会に向けての抱負〉

メダル獲得を目標に、自分らしさを存分に発揮し、悔いの残らないように頑張ります。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目!〉

攻めの姿勢。海外レースでも臆せず前に出ていくところに注目していただければと思います。

〈座右の銘/好きな言葉〉

克己心



藤澤 勇 (ふじさわ・いさむ)



ALSOK・東京 1987/10/12 生

中野実業高校(長野)→山梨学院大学→ALSOK

選考競技会成績：2017日本選手権20kmW 2

位1時間18分23秒

2017全日本競歩能美20kmW 欠場

世界選手権出場回数：2大会連続3回目

(2017/2015/2009)

自己ベスト：1時間18分23秒(2017日本選手権)

主な成績：

2016年 オリンピック 20kmW 21位

2015年 世界選手権 20kmW 13位

2014年 ワールドカップ競歩 20kmW 25位

〈大会に向けての抱負〉

私にとって開催地のロンドンは、五輪初出場の思い出の地です。5年前は、果たせなかったメダル獲得を今大会で実現できるよう頑張ってきたと思います。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目!〉

男子20km競歩のスピードは、1km4分を切るスピードです。

これは、フルマラソンで3時間を切るスピードです。そのスピードにより磨きをかけてきたので注目して下さい。

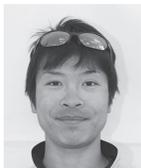
〈座右の銘/好きな言葉〉

逆境が人を育てる



【男子50kmW 3名】

小林 快 (こばやし・かい)



ビックカメラ・東京 1993/02/28 生
秋田工業高校(秋田)→早稲田大学→ビックカメラ
選考競技会成績:2016全日本競歩高畠 50kmW
1位 3時間42分08秒
2017日本選手権 20kmW 4位 1時間19分13秒

世界選手権出場回数:初出場

自己ベスト:3時間42分08秒

(2016全日本競歩高畠)

主な成績:

2016年 世界競歩チーム選手権
20kmW 途中棄権

〈大会に向けての抱負〉

メダルを目指します。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目!〉

長い時間の競技ですが、だからこそそのドラマがあります。後半の粘りが武器です。

〈座右の銘(信条)/好きな言葉〉

今この瞬間を夢の為に使っているか



丸尾 知司 (まるお・さとし)



愛知製鋼・愛知 1991/11/28 生
洛南高校(京都)→びわこ成蹊スポーツ大学
→和歌山県教育庁→愛知製鋼
選考競技会成績:2016全日本競歩高畠 50kmW
4位 4時間02分36秒
2017日本選手権 20kmW 6位 1時間20分31秒

2017日本選手権 50kmW 2位 3時間49分17秒

世界選手権出場回数:初出場

自己ベスト:3時間49分17秒(2017日本選手権)

主な成績:

2016年 世界競歩チーム選手権 20kmW 41位

〈大会に向けての抱負〉

応援してくださる皆様に感謝の気持ちを含めて結果で恩返しができるよう、自らの持てる最大限のパフォーマンスを発揮できるようにしっかりと準備をしたいと思います。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目!〉

50km競歩は、4時間のレースになりますが最後まで本当に何が起こるかかわからないところが魅力です。私の持ち味は、粘り強さです。

〈座右の銘(信条)/好きな言葉〉

Never give up



荒井 広宙 (あらい・ひろおき)



自衛隊体育学校・埼玉 1988/05/18 生
中野実業高校(長野)→福井工業大学→石川陸協
→北陸亀の井ホテル→自衛隊体育学校
選考競技会成績:2017日本選手権 20kmW 5位
1時間19分25秒
2017日本選手権 50kmW 1位 3時間47分18秒

世界選手権出場回数:4大会連続4回(2017/2015/2013/2011)

自己ベスト:3時間40分20秒(2015日本選手権)

主な成績:

2016年 オリンピック 50kmW 3位

2015年 世界選手権 50kmW 4位

2013年 世界選手権 50kmW 11位

〈大会に向けての抱負〉

メダルを目標にがんばります。皆様、応援を宜しくお願いいたします。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目!〉

長丁場のレース、失格や途中棄権など最後まで何が起こるかわかりません、トップ選手の美しいフォームを是非見て下さい。

〈座右の銘(信条)/好きな言葉〉

継続は力なり



【女子20kmW 1名】



岡田 久美子 (おかだ・くみこ)
ビックカメラ・東京 1991/10/17 生
熊谷女子高校(埼玉)→立教大学→ビックカメラ
選考競技会成績:2017日本選手権 20kmW 1位
1時間29分40秒
2017全日本競歩能美 20kmW 4位 1時間33分21秒

世界選手権出場回数:

2大会連続2回目(2017/2015)

自己ベスト:1時間29分40秒(2016日本選手権)

主な成績:

2016年 オリンピック 20kmW 16位

2015年 世界選手権 20kmW 25位

2014年 ワールドカップ競歩 20kmW 54位

〈大会に向けての抱負〉

8位入賞目指して頑張ります。

〈競技のココ・私のこんな姿に注目!〉

ルールが厳しい為、失格や駆け引きがあり最後までハラハラドキドキするところが競歩の魅力です。世界陸上も持ち味の安定したフォームで臨みます。

〈座右の銘(信条)/好きな言葉〉

日進月歩



評議員会・理事会報告

第42回理事会

日時：2017年5月22日（月）

14時01分～15時52分

場所：小田急第一生命ビル 11階 貸会議室

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数30名、出席者数30名で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

（協議事項）

1. 第6期事業報告・決算報告

尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算報告について、山田監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。

（資料1および本連盟ウェブサイト

<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/>参照）

2. 2017年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、第4回日中韓3カ国交流陸上競技大会（2017/寧波）の日程を7月2日（日）とすることが承認された。

3. 後援競技会規程の改定

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、後援競技会規程の第4条6項、第16条および第19条を改定することが承認された。ただし、第4条6項は追って、条文を整理することとなった。

改定が承認された条文は波線箇所。

第4条6 競技規則第149条2に定める、競技場以外で行われる競技会は、屋外種目別陸上競技施設公認に関する細則に準じる施設とする。（新規で追加。屋外種目別陸上競技施設が公認されることとなったため。）

第16条 後援競技会の主催者は、日本アンチ・ドーピング規程を適用し厳格に遵守し、日本アンチ・ドーピング機構及び本連盟医事委員会に相談の上、ドーピング検査室を設置する。（ドーピング防止に関する規程の名称が変更となったため。）

第19条 本連盟が指定する後援競技会的主催者は、本連盟が指定する競技会役員、競技役員〔JTOs (Japan Technical Officials)、JRWJs (Japan Race Walking Judges)、NFR (National Federation Representative) 等〕を委嘱しなければならない。（日本代表選考競技会やその他トップクラスの競技者が出場する競技会では記録の信憑性、運営の確実性、安全管理、選考の公平性を担保する必要があるため。）

第4. 第16回世界陸上競技選手権大会（2017/ロンドン）
トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改定

伊東強化委員長より資料に基づき説明があり、第16回世界陸上競技選手権大会（2017/ロンドン）トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項における、リレー種目の選考および第2次代表選手の追加条件について、改定が承認された。

（承認された要項は、http://www.jaaf.or.jp/files/upload/201705/23_200212.pdf参照）

5. ジャカルタ2018アジア競技大会
マラソン・競歩日本代表選手選考要項

伊東強化委員長より資料に基づき説明があり、ジャカルタ2018アジア競技大会マラソン・競歩日本代表選手選考要項が承認された。（資料2-1、2-2参照）

6. 公認記録規程および公認競技会規程の改定
鈴木競技運営委員長より資料に基づき説明があり、公認記録規程の第3条および公認競技会規程第7条の改定が承認された。

改定が承認された条文は波線箇所。

〔公認記録規程〕
第3条 公認記録には、以下の条件が必要となる。

①公認競技会で樹立された記録であること。ただし、200m以内の競技、走幅跳及び三段跳の屋外記録は、風速が+2.0mを超えた場合、混成競技は、風速を計測する種目の平均秒速が+2.0mを超えた場合、参考記録として区別される。

（風速の測定が必要な種目は、追い風2.0mを超えた場合、公認記録ではあるが、参考記録として区分されることを明確にするため。）

②クロスカントリー競走、マウンテンレース、トレイルレース及びロードリレーを除く駅伝競走の記録は、公認記録にならない。

③競技者が本連盟登録会員、もしくは主催者が認めた外国人競技者であること。

④本連盟の公認に関する諸規定に合致した陸上競技場、長距離競走路及び競歩路で行われる種目は、事前に検定を受けている距離及び器具で実施されること。

（競技会は競技場内、競技場外を問わず検定を受けている距離及び器具で実施される必要があるため、整合性をとるため。）

⑤競技会終了後30日以内に指定された方法及び書式で、本連盟に結果が申請されること。

〔公認競技会規程〕

第7条 公認競技会は、本連盟の公認に関する諸規定に合致した陸上競技場、長距離競走路及び競歩路で行うものとする。

（「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程」で「陸上競技場」の定義には「公認競技場」、「屋内競技場」、「屋外種目別施設」が含まれているため。）

（報告事項）

1. 第42回世界クロスカントリー選手権大会（2017/カンバラ）報告

2. 2017ワールドリレーズ（ナッソー）報告

3. 2017年度春季国際競技会派遣報告

4. 第2回アジアユース陸上競技選手権大会（2017/バンコク）

日本代表選手

5. 第16回世界陸上競技選手権大会（2017/ロンドン）

競歩日本代表選手

6. 第22回アジア陸上競技選手権大会（2017/ブバネシュワル）

日本代表選手選考要項

7. その他国際競技会派遣方針

上記、伊東強化委員長より資料に基づき、報告された。

なお、非公開において、「評議員会に推薦する次期役員候補者の選定」「日本陸上競技連盟主催競技会における全面禁煙についての検討」を協議し、原案通り承認された。

定時評議員会（非公開）

日時：2017年6月9日（金）

14時27分～15時21分

場所：ハイアットリージェンシー東京 地下1階「白鳳」

【議題】

（協議事項）

1. 第6期事業報告・決算報告

2. 理事及び監事の選任

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より評議員定数20名、出席者数17名で本評議員会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

（協議事項）

1. 第6期事業報告・決算報告

尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算報告について、前島監事より監査報告についてそれぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。

（資料1及び本連盟ウェブサイト<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/>参照）
また、任期満了に伴う今期の「理事及び監事の選任」を行い、原案通り承認された。（本号223頁参照。）

第43回理事会（非公開）

日時：2017年6月12日（月）

13時01分～13時56分

場所：小田急第一生命ビル 11階 貸会議室

【議題】

（協議事項）

1. 会長・副会長・専務理事、代表理事・業務執行理事の選定

2. 定款細則の改定

3. 専門委員長の選任

4. 常勤理事の報酬

5. 第10回U18世界陸上競技選手権大会（2017/ナイロビ）への日本代表選手団の派遣

（報告事項）

1. 2017年度日本オリンピック委員会ナショナルコーチ、アシスタントナショナルコーチ、専任コーチ等

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数30名、出席者23名で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

上記の協議事項が承認され、また報告を行った。（今期の会長、副会長、専務理事及び専門委員長は本号223頁参照。）

資料1 公益財団法人日本陸上競技連盟

第6期 決算書・前年度対比

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:円)

| 科目 | 第6期決算額 | 第5期決算額 | 増減 |
|--------------|---------------|---------------|--------------|
| (1) 経常収益 | | | |
| 1. 基本財産運用収益 | 1,442,132 | 675,068 | 767,064 |
| 2. 登録料受入収益 | 26,667,600 | 25,701,400 | 966,200 |
| 3. 加盟金受入収益 | 4,700,000 | 4,700,000 | 0 |
| 4. 受取寄付金 | 10,000,000 | 25,300,000 | △15,300,000 |
| 5. 受取委託金・助成金 | 346,404,211 | 310,143,385 | 36,260,826 |
| 6. 事業収益 | 1,652,397,281 | 1,656,985,485 | △4,588,204 |
| 7. その他事業収益 | 52,136,963 | 56,499,507 | △4,362,544 |
| 8. 雑収益 | 15,947,900 | 4,306,769 | 11,641,131 |
| 経常収益計 | 2,109,696,087 | 2,084,311,614 | 25,384,473 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 9. 事業費 | 1,957,368,865 | 1,834,186,265 | 123,182,600 |
| 10. 管理費 | 100,474,479 | 94,144,915 | 6,329,564 |
| 経常費用計 | 2,057,843,344 | 1,928,331,180 | 129,512,164 |
| 当期経常増減額 | 51,852,743 | 155,980,434 | △104,127,691 |
| 経常外費用計 | 0 | △2,000,000 | 2,000,000 |
| 当期正味財産増減額 | 51,852,743 | 153,980,434 | △102,127,691 |

資料2-1 ジャカルタ2018アジア競技大会マラソン日本代表選手選考要項

1. 編成方針

東京2020オリンピックでは、暑熱下でのレースが予想される。本大会に臨む本連盟の狙いは、本大会での活躍はもとより、東京2020オリンピックの高温多湿の環境下でも実力を存分に発揮し、戦い抜くチームを作ること。そのためには、優れた選手と選手を取り巻くスタッフが本番さながらの体制で本大会に取り組むことを期している。こうした展望の下、東京2020オリンピックに向けた暑熱対策等の強化施策と位置付け、メダル獲得を目指すチームを編成する。

2. 選考競技会

(1) 男子

- 第71回福岡国際マラソン選手権大会 (2017/福岡)
- 東京マラソン2018 (2018/東京)
- 第73回びわ湖毎日マラソン (2018/大津)
- 第67回別府大分毎日マラソン (2018/別府)
- 2017北海道マラソン (2017/北海道)

(2) 女子

- 第3回さいたま国際マラソン (2017/さいたま)
- 第37回大阪国際女子マラソン大会 (2018/大阪)
- 名古屋ウィメンズマラソン2018 (2018/名古屋)
- 2017北海道マラソン (2017/北海道)

3. 選考基準

編成方針に基づき、各選考競技会出場者の中から、下記の基準により、

男女各々最大で2名を選考する。ただし、選考競技会において「マラソングランドチャンピオンレース」の出場資格を得た競技者を優先する。

各選考競技会での記録、順位、レース展開、タイム差、気象条件等を総合的に勘案しつつ、本大会で活躍が期待されると評価された競技者

4. 選考方法

全ての選考競技会終了後、選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会にて選考し、理事会において決定する。

5. その他

- 派遣人数枠及び代表選手は、派遣団体である公益財団法人日本オリンピック委員会が正式決定する。
- 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消しがある。
- 代表選手の決定から本大会までの期間が長いことに配慮し、男女各1名の補欠を選考し、ファイナルエントリーまでに正選手に故障などが生じた場合は、補欠が正選手となり本大会に出場する。
- アンチ・ドーピング(居場所情報の提出を含む)に関わる全ての基準を順守出来ない場合、日本代表の資格を取り消す場合がある。
- 天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
- 本大会は、2018年8月18日から9月2日まで、ジャカルタ(インドネシア)で開催される。

資料2-2 ジャカルタ2018アジア競技大会競歩日本代表選手選考要項

1. 編成方針

東京2020オリンピック競技大会へ向けた重点国際競技会として位置づけ、メダル獲得を目指すチームを編成する。

2. 選考競技会

(1) 男子20km競歩

- 第101回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 (2018/神戸)
- 第42回全日本競歩能美大会 (2018/能美)

(2) 男子50km競歩

- 第56回全日本50km競歩高大会 (2017/高島)
- 第102回日本陸上競技選手権大会・50km競歩 (2018/輪島)

(3) 女子20km競歩

- 第101回日本陸上競技選手権大会・20km競歩 (2018/神戸)
- 第42回全日本競歩能美大会 (2018/能美)

3. 選考基準

編成方針に基づき、各選考競技会での記録、順位、レース展開、タイム差、気象条件等を総合的に勘案しつつ、歩型違反による失格のリスクの程度も併せて勘案し、本大会で活躍が期待される競技者を、各

選考競技会で日本人3位以内の競技者の中から各種目最大で2名を選考する。

4. 選考方法

編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、原案策定会議で決定し、理事会において報告する。

5. その他

- 派遣人数枠及び代表選手は、派遣団体である公益財団法人日本オリンピック委員会が正式決定する。
- 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消しがある。
- アンチ・ドーピング(居場所情報の提出を含む)に関わる全ての基準を順守出来ない場合、日本代表の資格を取り消す場合がある。
- 天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
- 本大会は、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会の選考競技会とする。
- 本大会は、2018年8月18日から9月2日まで、ジャカルタ(インドネシア)で開催される。

第2回アジアユース陸上競技選手権大会報告

強化委員会 強化育成部 コーディネーター 岩瀧 一生

1. はじめに

第2回アジアユース陸上競技選手権大会が5月20日から23日まで、タイのバンコクで開催された。若年層の競技者に国際大会を経験させることを目的とし、日本選手団は、男子10名、女子6名、役員9名で構成された(表1)。高校1年生を中心としたチーム編成となったが、投擲種目はユース規格の競技会が国内では少ないことから、U18世界陸上競技選手権大会の参加標準記録突破を目指すため、U20オリンピック育成競技者からも選考した。国際大会が初めての競技者がほとんどであったが、環境にうまく順応し、堂々と競技会に臨むことができたのではないかと感じている。

5月16日に前泊のホテルで行われた結団式では、舟橋昭太監督より「今後のジュニア、シニアにつながるよう多くの経験をしてほしい」との挨拶があった。また、今大会の男子キャプテンは松田貫汰選手(咲くやこの花高等学校)、女子キャプテンは齋藤真希(鶴岡工業高等学校)選手が任命された。

2. 生活環境

バンコクの気候は、連日気温36度、湿度70~80%という高温多湿の厳しい環境であった。心配されていたス

コールは、競技会期間中はなく天候には恵まれた。競技場は、ホテルから徒歩15分程度に位置していた。ホテルから競技場までのシャトルバスが1時間に1本程度しかなかったが、ホテルと競技場の位置関係から歩いてホテルに戻ることができ、モーニングセッションとアフタヌーンセッションの間は涼しい場所で過ごすことができた。食事心配されていたが、3食ともビュッフェスタイルで展開され、また、コンビニやスーパーマーケットも徒歩圏内にあり特に不自由を感じることはなかった。

3. 大会運営状況

アジアで開催される競技会はトラブルがつきものである。こういった状況に柔軟に対応しなければ、ベストパフォーマンスは発揮できない。試合前のミーティングでは、監督や各コーチからこの点についての対応方法や、心構え、現在自分たちの置かれている状況等が丁寧に説明された。

タイムテーブルや招集時間は決まっているものの、その場の状況に応じて簡単に変更されてしまうため、常に最新の情報を手に入れ、変更に応じて即座に対応できるよう準備した。表彰式の時間やシャトルバスの時間もルーズなため、時間に余裕をもって行動することが必要

表1 第2回アジアユース選手権大会日本代表選手

| 【選手】 | | | | |
|------|---------|---------|-------------|----------------|
| | 種目 | PB | 氏名 | 所属 |
| 男子 | 100 m | 10.83 | 木下凜太郎 | 東福岡高等学校 |
| | 200 m | 21.89 | 稲毛 碧 | 東京学館新潟高等学校 |
| | 1500 m | 3.54.49 | 服部 凱杏 | 佐久長聖高等学校 |
| | 110 m H | 13.85 | 久保田倭輔 | 社高等学校 |
| | 走幅跳 | 7.40 | 和田 晃輝 | 太成学院大学高等学校 |
| | やり投 | 64.47 | 中村健太郎 | 清風南海高等学校 |
| | やり投・砲丸投 | 18.18 | 松田 貫汰 | 咲くやこの花高等学校 |
| | 円盤投・砲丸投 | 17.25 | 山下 航生 | 市立岐阜商業高等学校 |
| | 10000W | 42.47 | 濱西 諒 | 履正社高等学校 |
| | 10000W | 42.57 | 鈴木 大 | 智辯学園奈良カレッジ高等学校 |
| 女子 | 100 m | 11.79 | 鈴木くるみ | 旭川龍谷高等学校 |
| | 200 m | 24.68 | 井戸 アビゲイル 風果 | 至学館高等学校 |
| | 100 m H | 13.81 | 長崎さゆり | 大社高等学校 |
| | 走幅跳 | 6.20 | 藤山 有希 | 東海大学附属相模高等学校 |
| | 走幅跳 | 5.81 | 北田 莉亜 | 摂津高等学校 |
| | 円盤投 | 49.65 | 齋藤 真希 | 鶴岡工業高等学校 |

【役員】

| | | |
|----------|-------|------------------------|
| 監督 | 舟橋 昭太 | 強化委員会 強化育成部 中体連担当 |
| ヘッドコーチ | 大林 和彦 | 強化委員会 強化育成部 高体連担当 |
| 短距離 | 原田 隆弘 | 強化委員会 強化育成部 短距離委員 |
| 長距離 / 競歩 | 塚田美和子 | 強化委員会 強化育成部 長距離 / 競歩委員 |
| 跳躍 | 坂部 雄作 | 強化委員会 強化育成部 跳躍委員 |
| 投擲 | 秋本 純男 | 強化委員会 強化育成部 投擲委員 |
| ドクター | 向井 直樹 | 医事委員会 副委員長 |
| トレーナー | 砂川 祐輝 | (株)レファ |

【渉外】

| | | |
|-----|-------|-------------------------|
| 事務局 | 岩瀧 一生 | 日本陸上競技連盟 強化育成部 コーディネーター |
|-----|-------|-------------------------|

となる。

また、ウォームアップエリアは一周200m程度の小さなトラックと、400mのサブトラックであった。小さいトラックの中の芝生では、現地の人々がサッカーを楽しんだり、サブトラックには全く日陰がなかったりという日本ではあり得ない状況であったが、コーチ陣による臨機応変かつ確かな対応があったため、怪我や大きく体調を崩す競技者もなくウォームアップを行うことができた。

4. 競技成績

今大会の日本選手団の成績は、銀メダル3個、銅メダル4個、派遣選手16名(18種目)でメダルを含め13種目の入賞があった(表2)。また、過酷な環境の中、自己ベストを更新することができた競技者は5名であった。大会初日に行われた女子100mHにおいて、長崎さゆり選手(大社高等学校)が銀メダルを獲得、また、女子走幅跳に出場した藤山有希選手(東海大付属相模高等学校)が銅メダル、北田莉亜選手(摂津高等学校)が4位入賞、そして、男子100mに出場した木下凜太郎(東福岡高等学校)が準決勝において自己ベストである10.73(+1.3m/s)で翌日に行われる決勝に進出するなど、日本選手団に勢いをつけた。大会二日目には、男子キャプテンの松田選手が砲丸投で自己ベスト(ユース規格:5kg)を更新し、銅メダルを獲得、また、男子走幅跳に出場した和田晃輝選手(大成学院大学高等学校)も銅メダルを獲得した。三日目の午前中に行われた男子10000mWでは、気温と湿度が高い悪条件の中、鈴木大選手(智辯学園奈良カレッジ高等学校)が残り400mからのラストスパートで中国選手突き放し銀メダルを獲得、同じく濱西諒選手(履正社高等学校)も粘りのレースで4位に入賞した。午後に行われた男子200mでは、稲木碧選手(東京学館新潟高等学校)が準決勝で21.85(0.0m/s)の自己ベストで決勝進出、また、男子1500mに出場した服部凱杏選手(佐久長聖高等学校)は、海外のレース展開に翻弄されることなく自分のペースを貫き、銀メダルを獲得した。大会最終日は、女子200mに

出場した井戸アビゲイル風果選手(至学館高等学校)が前日に少し体調を崩したものの、24.60(+0.5m/s)の自己ベストで銅メダルを獲得し、男子やり投の中村健太郎選手(清風南海高等学校)と松田貫汰選手とともに自己ベスト(ユース規格:700g)で、中村選手4位、松田選手6位と入賞することができた。

5. 最後に

アジアユース選手権は本大会が2回目の開催となる。各国とも選手選考や派遣について様々な戦略で行っているようであった。次回大会が開催される2019年は、U18世界陸上競技選手権大会が行われなため、より戦略的に今後の派遣方針について検討しなければならない。

今回帯同していただいた監督はじめコーチングスタッフには、競技者が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、あらゆる面でご配慮いただいたことに感謝申上げたい。また、向井ドクター、砂川トレーナーには、代表選手が決まった段階から細やかな対応をしていただいた。国際大会が初めての選手にも大変心強いサポートであったことは、過酷な条件の中でも多くの自己記録更新者が出たことと滞在期間中に大きなケガや病気がなかったことから明らかである。

今大会に出場した競技者が、今後のジュニア・シニアの大会でも活躍し、日本の陸上競技界を牽引できる存在になることを期待し、大会報告とさせていただきます。



表2 第2回アジアユース陸上競技選手権大会(2017/バンコク)日本選手リザルト

該当ラウンドはありません

期日: 2017年5月20日~23日

| No. | 種目 | 氏名 | 所属 | 自己ベスト | 日付 | 予選 | 日付 | 準決勝 | 日付 | 決勝 |
|-----|-----------|-----------|--------------|----------|------|----------------------------|------|-------------------------------|------|-------------------------|
| 1 | 100m | 木下凜太郎 | 東福岡高校 | 10.83 | 5/20 | 10.85 (0.0m/s) 2組1着 準決勝進出 | 5/20 | 10.73 (+1.3 m/s) 1組3着 PB 決勝進出 | 5/21 | 10.96 (-0.1m/s) 8位 |
| 2 | 200m | 稲毛 碧 | 東京学館新潟高校 | 21.89 | 5/22 | 21.98 (+0.1m/s) 5組1着 準決勝進出 | 5/22 | 21.85 (0.0m/s) 3組2着 PB 決勝進出 | 5/23 | 22.00 (+0.4m/s) 5位 |
| 3 | 1500m | 服部 凱杏 | 佐久長聖高校 | 3: 54.49 | | | | | 5/22 | 3:55.04 銀メダル |
| 4 | 110mH | 久保田待輔 | 社高校 | 13.85 | 5/20 | 14.35 (+0.1 m/s) 3組4着 落選 | | | 5/20 | |
| 5 | 走幅跳 | 和田 晃輝 | 大成学院大学高校 | 7.40 | | | | | 5/21 | 7.30 (-0.1 m/s) 銅メダル |
| 6 | やり投(700g) | 中村健太郎 | 清風南海高校 | 64.78 | | | | | 5/23 | 69.89 PB 4位 |
| 7 | やり投(700g) | 松田 寛汰 | 咲くやこの花高校 | 58.76 | | | | | 5/23 | 64.53 6位(ユース規格で初出場) |
| 8 | 砲丸投(5kg) | 鈴木 大 | 智辯学園奈良カレッジ高校 | 18.18 | | | | | 5/21 | 18.59 PB 銅メダル |
| 9 | 円盤投 | 山下 航生 | 岐阜商業高校 | 45.72 | | | | | 5/22 | 48.00 9位 |
| 10 | 砲丸投 | 鈴木 大 | 智辯学園奈良カレッジ高校 | 17.56 | | | | | 5/21 | 16.28 12位 |
| 11 | 10000mW | 濱西 諒 | 履正社高校 | 42.47 | | | | | 5/22 | 48:00.69 4位 |
| 12 | 10000mW | 鈴木 大 | 智辯学園奈良カレッジ高校 | 42.57 | | | | | 5/22 | 45:47.41 銀メダル |
| 13 | 100m | 鈴木くるみ | 旭川龍谷高校 | 11.79 | 5/20 | 12.50 (0.0 m/s) 2組3着 落選 | | | 5/21 | |
| 14 | 200m | 井戸アビゲイル風果 | 至学館高校 | 24.68 | 5/22 | 24.77 (0.0m/s) 2組2着 準決勝進出 | | | 5/23 | 24.60 (+0.5m/s) PB 銅メダル |
| 15 | 100mH | 長崎さゆり | 大社高校 | 13.81 | 5/20 | 14.23 (+0.1 m/s) 1組1着 決勝進出 | | | 5/20 | 14.23 (+0.1 m/s) 銀メダル |
| 16 | 走幅跳 | 藤山 有希 | 東海大学付属相模高校 | 6.20 | | | | | 5/20 | 5.82 (+0.7 m/s) 銅メダル |
| 17 | 走幅跳 | 北田 莉亜 | 摂津高校 | 5.81 | | | | | 5/20 | 5.80 (+0.2 m/s) 4位 |
| 18 | 円盤投 | 齋藤 真希 | 鶴岡工業高校 | 49.65 | | | | | 5/21 | 43.77 4位 |

U16 ブロック研修合宿報告

スポーツ振興くじ助成金の支援を得て、中学生のブロック合宿（北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州）が実施され、2016年度で4回目となった。

ブロック合宿を実施する意義は、「都道府県合宿」→「U16 ジュニアブロック研修合宿」→「U16全国研修合宿」とU16の選手がステップアップできる道筋ができたことにある。2012年度までは、都道府県単位の合宿がほとんどであり、ブロック単位での実施は関東のみであった。他の競技と異なりU16の選手は国際大会がない為、各ブロックでタレントを発掘して日本代表に吸い上げ世界にチャレンジするという仕組みはなかった。従来では、U16全国研修合宿が唯一都道府県を超えて選手がライバルとしてではなく仲間として切磋琢磨できる機会であった。その意味で、2013年度よりブロック単位で合宿ができるようになったことは、U16の選手及び指導者にとって都道府県合宿の次のステップを意識することができるようになり、また横の繋がりを持つことができる貴重な機会である。今回のブロック合宿では、各ブロックのタレント発掘、競技力の向上、競技者の意識の向上、指導者の指導法の向上など様々な面で収穫があった。もちろん課題も多く、費用面、参加人数、会場の確保、開催時期の問題、運営方法の問題等が挙げられる。これらの問題も、引き続きブロック合宿を開催していくことで解決していきたい。これらの道筋を経験した選手がその後、U18・U20カテゴリーの国際大会やその後の世界選手権、オリンピックへ羽ばたいていくことを期待したい。

| ブロック | 都道府県 | 日程 | 開催地 | 会場 | 選手 | 指導者 |
|------|--------------------------|-------------|-----|-------------------------|------|-----|
| 北海道 | | 12/27-28 | 北海道 | きたえる | 45 | 18 |
| 東北 | 青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 | 12/3-12/4 | 宮城 | ひとめぼれスタジアム | 242 | 44 |
| 関東 | 茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨 | 12/26-12/28 | 栃木 | 栃木県総合運動公園 | 394 | 120 |
| 北信越 | 新潟・長野・富山・石川・福井 | 1/14-1/15 | 静岡 | 小笠山運動公園エコスタジアム 陸上競技場 | 310 | 95 |
| 東海 | 静岡・愛知・三重・岐阜 | 1/14-1/15 | 静岡 | 陸上競技場 | 310 | 95 |
| 近畿 | 滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山 | 1/7-1/9 | 京都 | 丹波レイニングセンター | 350 | 50 |
| 中国 | 鳥取・島根・岡山・広島・山口 | 12/26-12/28 | 広島 | コカ・コーラエド広島スタジアム | 102 | 20 |
| 四国 | 香川・徳島・愛媛・高知 | 12/25-12/26 | 徳島 | ボカレストスタジアム | 118 | 30 |
| 九州 | 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄 | 12/23-12/25 | 熊本 | うまかなよなスタジアム | 177 | 27 |
| 参加人数 | | | | | 1738 | 404 |

〈北海道〉(担当 山岸 正直)

ブロック研修合宿は、12月27日～12月28日にきたえる、ホテルハシモトを使用して開催した。参加者は選手45名、指導者18名であった。札幌市強化選手と合同で練習を行う場面も作り交流できた。

今回はメインアリーナを使用し、1日目は全体で棟方先生



(都立富士高校)を招き「ビートランニング」で動き作りを行った。2日目は各種目に分かれ、基本的な動き作りを中心とした内容をしっかりと行うことができた。指導者も選手一人一人の動きをチェックし、各学校に戻ってからの練習内容などアドバイスが十分できていた。

〈東北〉(担当 武石 林太郎)

東北ブロック研修合宿は、12月3日～4日にひとめぼれスタジアム宮城を練習会場とし、宿舎（アークホテル仙台、ホテルルートイン仙台多賀城駅前、ホテルグリーンセレクト、ホテルルートイン仙台多賀城、ホテルパールシティ仙台、ホテル新ばし）を使用して開催した。参加者は選手242名、指導者44名であった。今年度は、秋田県の旅行業者が主担当となり、一括して宿泊場所を斡旋した。

会場の「ひとめぼれスタジアム宮城」はトラックは勿論のこと、屋内練習場も充実しており、天候に左右されず運営できた。東北地方でこの時期心配される降雪や積雪もなく、例年になり好天に恵まれ、充実した練習を実施することができた。

比較的積雪の少ない宮城県に会場を固定し、宮城県スタッフを中心に各県スタッフの協力の下、「東北は一枚岩」を合い言葉に開催できていることに感謝したい。



〈関東〉(担当 柳田 輝光)

関東ブロック研修合宿は、12月26日～12月28日に栃木県総合運動公園陸上競技場及び栃木市総合運動公園陸上競技場、永野川緑地公園にて練習を行い、東武ホテルグランデ、ホテル東日本、チサンホテル、ホテルニューイタヤ、ホテルマイステイズを使用して開催した。参加者は選手394名、指導者120名であった。

コントロールテストやトライアル形式の練習で各都県の選手同士、しのぎを削るような場面が見られ、和気あいあいとした雰囲気の中にも緊張感のある良い雰囲気練習を進める



ことができた。最後には選手同士が栃木関東、熊本全中の地で再会することを約束し、笑顔で帰宅の途についた。

〈北信越・東海〉(担当 桑原 良成)

ブロック研修合宿は、北信越ブロックと合同で1月14日～1月15日に(小笠山運動公園 エコパスタジアム)、(浜松市内のホテル)を使用して開催した。参加者は選手310名、指導者95名であった。各県で、トップ選手を東海ブロック40名、北信越ブロック30名、県スタッフ10名を基本として選考していただいた。

実施種目は、短距離・ハードル・走幅跳・走高跳・棒高跳・砲丸投の6種目とし、人数の多かった短距離・ハードルについては、メインコーチ+サポートコーチの2名体制として、状況に応じて男女別に活動できるようにした。今年度のメインコーチは、東海ブロックと北信越ブロックで協議の上、双方から実績豊富な先生方を選出いただいた。メインコーチの先生方には開催日以前に練習計画を立てていただき、事前に冊子に綴じて各県に配付した。これにより、他の参加スタッフも、当日にはおおよその練習内容を承知した上で指導に参加できるよう配慮した。



〈近畿〉(担当 山田 真孝)

ブロック研修合宿は、1月7日～1月9日に丹波自然運動公園、京都府トレーニングセンターを使用し、参加者は選手約350名、指導者50名で行いました。

練習形態は短距離・長距離・跳躍(幅三段・高跳・棒高)・投擲に別れ練習を進めた3日間を通して効率良く練習を行う事ができました。



〈中国〉(担当 長谷川 仁則)

中国ブロック研修合宿は、12月26日(月)～12月28日(水)に広島県のエディオンスタジアム、ダイヤモンドホテルを使用して開催しました。参加者は選手102名、指導者20名でした。今年度は短距離、障害、走幅跳の3ブロックで実施しました。今回の合宿も、各種目の基礎となる“走り”をメインテーマとし、民内利明先生を外部講師としてお招きして、1日目は“走の基本”を中心とする走練習、2日目以降は専門練習に取り

組みました。生徒・指導者ともに有意義な学びの場となりました。

選手たちはお互いにライバル意識を持ちながら、意欲的に練習や栄養指導の講義などに取り組みました。“勢いのある中国ブロック団”として、来シーズンも記録・勝負に挑んでいきます。



〈四国〉(担当 多田 利行)

四国ブロック研修合宿は、12月25日～12月26日にボカリスエットスタジアム、徳島グランヴィリオホテルを使用して開催した。参加者は選手118名、指導者30名であった。

本年度は昨年度同様、徳島県での開催となった。各県より指導者を集め四国四県で協力し、各県の指導者と連携をとりながら研修合宿を進めた。選手の中には夏の長野全中優勝者が参加していて選手は大変よい刺激となった。「四国は一つ」を合言葉に選手はもちろんのこと指導者も指導についての交流を深めることができた。また今回も栄養指導に大塚製菓の協力を得て講義を行った。



〈九州〉(担当 沢田 修)

九州ブロック研修合宿は、12月23日～12月25日に熊本県民総合運動公園陸上競技場を練習会場に、松屋別館、ホテル熊本テルサを宿舎として開催した。参加者は選手177名、指導者27名、視察指導者6名であった。



スポーツくじ



2017数字で見る陸上競技Vol.1 都道府県公認競技会数

事務局

今号より、昨年に引き続き、シリーズ「数字で見る陸上競技」の連載を開始します。
Vol.1では、2017年6月25日現在の都道府県陸上競技協会公認競技会数を掲載します。

| NO | 陸協名 | 公認競技会数 |
|----|-----|--------|
| 1 | 北海道 | 223 |
| 2 | 青 森 | 68 |
| 3 | 岩 手 | 38 |
| 4 | 宮 城 | 48 |
| 5 | 秋 田 | 74 |
| 6 | 山 形 | 113 |
| 7 | 福 島 | 87 |
| 8 | 茨 城 | 73 |
| 9 | 栃 木 | 46 |
| 10 | 群 馬 | 103 |
| 11 | 埼 玉 | 77 |
| 12 | 千 葉 | 93 |
| 13 | 東 京 | 187 |
| 14 | 神奈川 | 163 |
| 15 | 山 梨 | 56 |
| 16 | 新 潟 | 144 |
| 17 | 富 山 | 44 |
| 18 | 石 川 | 103 |
| 19 | 福 井 | 41 |
| 20 | 長 野 | 127 |
| 21 | 静 岡 | 89 |
| 22 | 愛 知 | 128 |
| 23 | 岐 阜 | 72 |
| 24 | 三 重 | 77 |
| 25 | 滋 賀 | 44 |
| 26 | 京 都 | 98 |
| 27 | 大 阪 | 202 |
| 28 | 兵 庫 | 272 |
| 29 | 奈 良 | 64 |
| 30 | 和歌山 | 75 |
| 31 | 鳥 取 | 55 |
| 32 | 島 根 | 94 |
| 33 | 岡 山 | 78 |
| 34 | 広 島 | 143 |
| 35 | 山 口 | 88 |
| 36 | 徳 島 | 56 |
| 37 | 香 川 | 94 |
| 38 | 愛 媛 | 55 |
| 39 | 高 知 | 62 |
| 40 | 福 岡 | 106 |
| 41 | 佐 賀 | 40 |
| 42 | 長 崎 | 47 |
| 43 | 熊 本 | 36 |
| 44 | 大 分 | 38 |
| 45 | 宮 崎 | 73 |
| 46 | 鹿児島 | 47 |
| 47 | 沖 縄 | 36 |
| | 合計 | 4177 |

大会観戦ガイド

2017.7.1 時点

今年もジュニア・ユース世代の夏が始まります。目指せオリンピック！若きアスリートたちの活躍を、ぜひ応援して下さい！

平成29年度

全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮賜杯 第70回全国高等学校 陸上競技対校選手権大会

▼競技期日：7月29日（土）～8月2日（水）

総合開会式 7月28日（金）

陸上開始式 7月29日（土）

▼会場：NDソフトスタジアム山形

天童市山王1番1号

▼アクセス：

・JR奥羽本線「天童駅」東口

〈タクシー〉約1,500円（約10分）

〈徒歩〉約50分

・JR奥羽本線「天童南駅」

〈徒歩〉約20分

・山形自動車道 山形北ICから国道13号線経由で約5.5km（10分）

▼種目：

〈男子〉 21種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、400mハードル、3000m障害物、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、八種競技

〈女子〉 20種目

100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、100mハードル、400mハードル、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技



昨年度の大会より（女子4×100mR決勝）

▼放映予定：

7月30日（日）15：30～16：30 NHK Eテレ ※予定

7月31日（月）15：30～16：30 NHK Eテレ ※予定

▼問い合わせ先：

平成29年度全国高等学校総合体育大会

天童市実行委員会事務局 陸上競技担当

TEL：023-654-1111 FAX：023-651-1303

E-mail：interhigh-t@city.tendo.yamagata.jp

大会ホームページ：http://2017soutai.jp/

平成29年度 第52回全国高等学校 定時制通信制陸上競技大会

▼期日：8月11日（金）～13日（日）

開会式 8月10日（木）16：00～

競技会 8月11日（金）9：30～予定

8月12日（土）9：30～予定

8月13日（日）9：30～予定

▼会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

東京都世田谷区駒沢公園1-1-1

▼アクセス：

東急田園都市線「駒沢大学駅」下車、「公園口」の出口を出て、自由通りを南へ直進、「駒沢公園東口」から入場、陸上競技場（サービスセンター）まで、約15分。

▼種目：

〈男子〉 15種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投

〈女子〉 11種目

100m、200m、400m、800m、3000m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投

▼問い合わせ先：

全国高等学校定時制通信制陸上競技大会事務局

（都立本所工業高等学校内）

TEL：

070-6458-2364

大会ホームページ：

http://gold.jaic.

org/teitsu/



昨年度の大会より（男子4×400mR、女子4×100mRを制した愛知県）



JAAF TOCHIGI 一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0152 宇都宮市西川田5-4-18
 コーポグランデ西川田駅前ビル103
 TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549
<http://www.jaaftochigi.jp/>

本格的にトラックシーズンを迎え、全国大会を始め各種大会において、本県選手が活躍することを大いに期待しております。また、各指導者においても、選手個々へ熱い指導と、高い目標を掲げ、強い精神力を養うなど、各種大会での活躍と好成績を修める日々の努力を期待しております。

第22回アジア陸上競技選手権大会 (7月6日～9日、フバネージュワル・インド)

日本大学、中島大輔〔佐野日大高出身〕が男子走高跳に日本代表選手として、選ばれました。尚、今大会の優勝者はIAAFのエントリールールに基づき、第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)の参加標準記録突破と同等の資格を有するので、素晴らしい活躍を期待しています。

2022年に本県で開催される第77回国民体育大会の県競技力向上対策本部は、5年後の中心選手に期待される現小学生を「チームとちぎジュニア選手」として、認定され国体に向けて、本県選手としての誇りや自覚を持たせることが狙いとして、県内41競技団体から推薦を募り、小学生4～6年生約500人を選出し、本協会からは22名の選手を推薦します。8月には認定授与式に参列し、トップアスリートによる講演会等に参加します。

第77回栃木国体へ向けて、本協会も成年選手育成企業雇用対策委員会を設置し、強化育成及び一貫指導の上から成年選手の強化と女子選手育成を目的に、県内の企業・事業所に対して、有望選手の雇用をお願い等を含め、企業・事業所の選定及び訪問等や大学側と連携を図り、雇用の祈願を通して選手の強化育成及び競技力向上を図り、多くの県民に感動や勇気を与え、ジュニア層に大きな夢を与えることができるよう強化を図る。(文責：理事長 大谷津薫)

JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店 気付
 TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791
<http://gold.jaic.org/gunma/index.html>

群馬陸上競技協会では、安達友信強化委員長(前橋育英高教)に代わり、本年度より岩脇正和氏(桐生第一高教)が就任した。安達前委員長は、平成11年より18年間強化委員長として強化に携わり、国体には選手・監督として25回の出場を果たされた。その間、監督としては長崎国体の天皇杯3位入賞をはじめ、新潟・和歌山国体の天皇杯6位、高知県国体の皇后杯4位など、群馬の陸上競技を牽引された。また、全国都道府県男子駅伝でも監督・コーチとして帯同し、第19回の3位を筆頭に6回の入賞、リオオリンピック代表の塩尻和也君など才能あふれる選手を送り出している。さらに、勤務校の生徒の全国レベルでの活躍は言うまでもない。石川県出身ながら、順天堂大学卒業以来群馬の地に腰を据えている岩脇新委員長には、今後の群馬陸上の強化に全力を注いでいただきたい。

また、女子駅伝で名門である本県の実業団「ヤマダ電機女子陸上競技部」には、株式会社モンテローザから監督・マネージャー・選手5名が移籍し、新生「ヤマダ電機陸上競技部」としての活動が始まった。日本トップレベルの選手が加入し、さらなる活躍が期待されることだ。

関東高校も全日程が終了し、本県勢は男女で優勝種目8種目(うち大会新2種目)、全国IH出場は優勝を含み延べ53種目という結果であった。昨年度のIH覇者、男子400m日の白尾悠祐君(東京農大二)を筆頭に、女子200m・400mの奥村ユリさん(共愛学園)、5000mWの阿部麻莉亜さん(新島学園)など、本県勢の全国での活躍に注目していただきたい。

JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30
 上尾運動公園陸上競技場内
 TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566
<http://sairiku.net/>

(一財)埼玉陸上競技協会は、三月に役員改選がありましたが、青葉昌幸会長の再任で、二期目(任期は29年度、30年度)になります。また、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場の改修作業も終了しました。本年度県内の大きな競技会は、8月の関東選手権大会(熊谷)、11月のさいたま国際マラソン(さいたま新都心)の二つになります。本協会として万全の準備をし、公平で記録の出る競技会運営を心がけて参りたいと思います。

最後に、本協会として数年前より編集作業を進めて参りました、「埼玉陸上競技の80年記念誌」が、多くの関係者から執筆をいただき11月に発行する運びとなりました。今まで、多くの優秀な選手、記録が県内で誕生していますが、ひとつの冊子としての記念誌はなく、大変な作業でした。特に写真や古い記録の収集には苦労しました。誌面をお借りして、多くの方にご協力いただき感謝申し上げます。(文責：総務委員会 木村一也)

JAAF CHIBA 一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323
 千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内
 TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314
<http://www.jaaf-chiba.jp/>

本協会一般財団法人化に貢献された大岩哲夫会長、藤原生通副会長及び高木義雄専務理事の任期満了により、4月の理事会並びに評議員会において新役員として、宇野裕会長、木内俊秀専務理事、香取憲吾常務理事が選出されました。専門委員会においても委員の刷新を行い、新たな体制を組織し協会運営にあたってまいります。

昨年度3回目となったちはばくアラインマラソン2016が、川内優輝選手(埼玉県庁)や吉田香織選手(TEAM R×L)をはじめ多くの招待選手やゲストランナーを迎え、10月に行われました。フルマラソンの完走率では1回目の2012大会の73.8%から89.6%へと大幅な伸びがみられ競技会としての質も高まりました。次回は2018年開催予定です。

2月には2017 X-RUN CHIBA・第2回全国中学生クロスカントリー選手権大会が千葉市昭和の森で行われました。中学生選手権では個人の部のほか各校上位3名の順位による学校対抗の部も競われ、各県の強豪校が総合力を発揮し成果を残しました。X-RUN CHIBAでは、実業団や学生のトップランナーとともに小学生のキッズランナーや市民ランナーが数多く参加し、陸上競技のすそ野を広げる大会となりました。

このほかに昨年度は8月関東選手権大会、本年度は6月関東高等学校対校大会といずれも上位大会につながる重要な大会の主管を務めました。他都県からの選手、関係者の皆様に対し、おもてなしの心とともに信頼される競技運営を心がけました。出場された選手の皆様、関係者の皆様へ感謝するとともに、今後も信頼される大会運営に力を尽くしたいと思います。(文責：専務理事 木内俊秀)

事務局からのお知らせ

◆◆全国統一かけっこチャレンジ2017◆◆



イベント名 全国統一かけっこチャレンジ 2017
 主催 公益財団法人日本陸上競技連盟 / 全国公共スポーツ施設指定管理者
 後援 スポーツ庁
 開催期間 2017年7月～2018年3月末
 参加資格 5歳以上
 参加費 大人1,100円(税込)、子供(高校生迄) 600円(税込)
 申込 公式HPより申込
 イベント内容 ①50m、100mタイムトライアル
 ②かけっこ教室
 ③世界記録体感コーナー等
 企画・運営 電通国際情報サービス(全国統一かけっこチャレンジ事務局)

| 日程 | 都道府県 | 会場 | 日程 | 都道府県 | 会場 |
|----------|------|----------------|-----------|------|-------------|
| 7/2(日) | 静岡 | エコパスタジアム | 10/15(日) | 福岡 | 本城陸上競技場 |
| 8/6(日) | 群馬 | 正田醤油スタジアム群馬 | 10/29(日) | 神奈川 | 厚木市荻野運動公園 |
| 8/20(日) | 青森 | 青森県総合運動公園陸上競技場 | 11/3(金祝) | 神奈川 | 相模原ギオンスタジアム |
| 8/27(日) | 石川 | 金沢市宮陸上競技場 | 11/23(木祝) | 香川 | Pikaraスタジアム |
| 9/18(月祝) | 岩手 | 北上陸上競技場 | 2/4(日) | 茨城 | たつのごフィールド |
| 10/1(日) | 東京 | 町田市立陸上競技場 | 2/12(月祝) | 広島 | 東広島運動公園 |
| 10/9(月祝) | 福島 | あいづ陸上競技場 | 3/25(日) | 東京 | 江東区夢の島競技場 |
| 10/14(土) | 新潟 | デンカビッグスワンスタジアム | 日程調整中 | 神奈川 | 日産スタジアム |

<http://www.kakekko-japan.com/>

陸連時報編集委員

- | | |
|-------------------|-----------|
| ◇編集委員 | ◇時報編集室責任者 |
| 横川 浩(陸連会長) | 大嶋 康弘 |
| 友永 義治(陸連副会長) | ◇時報編集担当 |
| 八木 雅夫(陸連副会長) | 繁田 進 |
| 尾縣 貢(陸連専務理事) | 石塚 浩 |
| 伊東 浩司(陸連強化委員長) | 青木 和浩 |
| 風間 明(陸連事務局長) | 宮田 宏 |
| 牧野 豊(陸上競技マガジン編集長) | 廣瀬 静香 |

陸連時報編集室

〒163-0717
 東京都新宿区西新宿2-7-1
 小田急第一生命ビル17階
 公益財団法人日本陸上競技連盟 内
 TEL 03-5321-6580
 FAX 03-5321-6591
 WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
 公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>